

# バレーボールリーグにおける

## クラブ型チームの現状及び今後の可能性

### ～つくばユナイテッド SunGAIA を対象にして～

生涯スポーツゼミナール 1315064 吉田 裕幸

#### 1. 研究動機・研究目的

2018年10月末より国内のVリーグが新しく「スーパーリーグ構想」を掲げ、開幕した。これまで集客やファンサービスに消極的だったチームも、徐々に重い腰を上げ、行政に支援を受けるための協定を結んだり、SNSを使ったファンへの広報活動を活性化するなど、チームの存在価値を高めようと動き出している。一方でVリーグは現在企業チーム優位が続いており、クラブ型チームはなかなか上位に食い込むことができてない現状にある。全日本チームの強化も大切であるが、強化合宿期間や大会期間は短いため、より多くの試合が行われるVリーグのレベル向上が結果的に日本バレーボール界のレベルの向上へと繋がっていくのは言うまでもない。したがって、Vリーグにおいてクラブ型チームも企業チームに負けないう競技力が求められていると私は考えた。

そこで本研究では、現在茨城県つくば市に本拠地を置く「つくばユナイテッド SunGAIA」の監督兼理事長を務められているM氏へのインタビュー調査を基に、つくばユナイテッド SunGAIA を事例研究として取り上げ、設立から現在までの過程、広報活動やスポンサー獲得に向けた取組、経営面での課題等を通してクラブ型チームの現状を把握したいと考えた。加えて、新しく開拓すべき部分はどこなのかを把握し、今後のVリーグにおけるクラブ型チームの在り方や可能性について考察し、提言することを目的とする。

#### 2. 研究方法

【調査対象】 つくばユナイテッド SunGAIA 理事長兼監督 M氏

【調査方法】 インタビュー調査  
ウェブ調査

【調査期間】 2018年10月17日

#### 3. 結論

本研究ではインタビュー調査を基に、クラブ型チームの現状及び可能性を探ってきた。先行研究にあるようにクラブ型チームはスポンサーに対してメリットを伝えることができ、強いチームであり、地域のシンボリックな存在になることが大切であると考えた。インタビュー調査を通して分かったことは、クラブ型チームは現状として選手の雇用先を確保することが簡単ではないということである。また、スポンサーを獲得するためにはまず地元の商工会等に積極的に足を運んだり、地域のイベントに参加したりといったように地域と共にあるチームであることが非常に大切であるということである。つくばユナイテッド SunGAIA は

バレーボールレッスンに力を入れたり、地域のお祭りに足を運んだりといったように地域のシンボルになろうとする取り組みが多いことが分かった。しかし、可能性を信じるよりも現状を理解し、適切に改革することが求められていると考える。1つのチームの競技レベルが上がればそれはリーグのレベルの底上げに繋がり、日本バレーボール界の底上げにも繋がると考える。これらを基にして私は以下のことを提言する。

①結果にこだわる運営をすること

結果を残すことでスポンサー企業はメディアでの露出が増えると予想でき、サポートも手厚くなり、運営資金が充足され则认为られる。

②Twitterのアカウントを開設すること

現在、つくばユナイテッド SunGAIAはFacebookは使用されているがTwitterは使用されていない。Twitterの方が訴求力に優れ、活動を知るきっかけを与えることができると考えられる。

③茨城県の他のスポーツチームと連携したイベントを開催する

バレーボール女子チーム「日立リヴァーレ」やサッカーチーム「鹿島アントラーズ」と共にイベントを開催し、選手の知名度や活動をアピールする機会を作ることで、つくば市だけでなく茨城県においてシンボリックな存在になるチャンスを得られると認められる。

#### 4. 本研究の限界と今後の課題

本研究ではクラブ型チームの対象を1チームに絞って行ったため、他のチームが同じ状況にあるとは限らないことは限界を感じるころである。今後の課題としてはクラブ型チームが抱える共通の課題は何か、成功しているところはどこかを複数のチームを対象にして研究を行い、全てのクラブ型チームに当てはめる運営方法を探っていく必要があると考える。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を行うにあたり、多くの方に支えていただきました。この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

まず、生涯スポーツ研究室という名前でありながらこのテーマで卒業論文を執筆することを快く受け入れていただいた指導教官であります黒須充先生には深く御礼申し上げます。いつもお忙しい中で卒業論文の面倒を見ていただき、無事最後までやり遂げることができました。

また、つくばユナイテッド SunGAIAの理事長兼監督のM氏には新・Vリーグが開幕する直前の時期で大変お忙しい中、インタビュー調査にご協力いただきました。心から感謝申し上げます。

最後に、この卒業論文を進めるにあたって共に励ましあってきた生涯スポーツ研究室のゼミ生である出口さん、江波戸君、栗原君、齋藤君、清水さん、鈴田君、濱野君、細野君、吉本君、高西君の10名にはゼミ活動でいつもお世話になりました。いつも楽しいゼミでした。4年間の大学生活で学んできたことを活かしてこれから様々なことに挑戦していきます。